

表 12 外部評価最終委員報告書

<p>高度人材育成のための社会人学び直し大学院プログラム 外部評価 評価委員報告書</p> <p>教育機関名称 産業技術大学院大学</p> <p>作成日 2017年3月1日</p> <p>作成者氏名 田中 秀穂</p> <p>出所など：日本技術者教育認定機構（専門職大学院認証評価報告書）を編集、抜粋して作成</p>

			<ul style="list-style-type: none"> Web、冊子体以外にも、infoTalk、起業塾などの公開事業の取り組みを通じて広く社会に公開されている点は特に評価できる <p>指摘事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 貴学が主催することによる強み、例えばITとデザインシンキングによるビジネスモデル創出などをもっと前面に押し出した副及があればさらに良い
2	<p>事業の目的・意義に沿って高度な専門職業人を育成するため、学生が課程修了時に保有しているべき知識・能力を、社会の要請を反映させつつ、学習・教育目標として明確に設定しており、学生および教員に周知していること。</p>	A	<p>根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営諮問会議の答申を踏まえ、IPAのCCSFも活用して、養成人材像、スキルが明確に示された目標が設定され明文化されている 冊子体、web、ガイダンスなどで十分に周知されている <p>指摘事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習・教育目標は、「ディプロマポリシー」の形で記述することがより望ましい。そのうえでアドミッションポリシーとの整合性を図りつつ、カリキュラムポリシーも制定するとより良い形になるのではないかと考えられる（全学ではアドミッションポリシーのみ確認できる） 社会の要請は時とともに変化するので、それを汲み上げ反映させるプロセスが明確になっているさらに良い

基準2：学生受け入れ方法

番号	評価項目	評価	根拠・指摘事項
1	<p>学習・教育目標を達成するために必要な能力を持った学生を事業プログラムに参加させるため、参加基準を明確に設定しており、学内外に公開していること。それを選抜の方法等に反映させて、公正、適切に実施していること。</p>	A	<p>根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業アークチャキヤ科目10単位の取得を条件として設定し、担任教員が面談も実施して選抜しており基準、選抜方法ともに問題ない 基準は冊子体、webなどで公開されている <p>指摘事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 専攻のアドミッションポリシーとの整合性を検討されたい。情報アークチャキヤ専攻のポリシーには「ビジネス価値」の記述があり問題ないが、創造技術専攻にはビジネスの視点が無いので今後の課題と考え

出所など：日本技術者教育認定機構「専門職大学院認証評価報告書」を編集、抜粋して作成

			る。 成績以外にも起業者マインドなどを考慮する仕組みもあっても良いかもしれない
--	--	--	--------------------------------------------

基準3：教育方法

番号	評価項目	評価	根拠・指摘事項
1	学生に事業プログラムにおける学習・教育目標を達成させるために、カリキュラムを体系的に設計しており、当該専攻に関わる学生および教員に開示していること。	S	根拠 <ul style="list-style-type: none"> ・ 要請する人材像に必要なカリキュラムが40単位の中で効果的に設計されている ・ ビジネスの基本的知識として必要な財務会計、人的資源管理などは推奨科目に入っている事業アークテックチャ特別演習履修の前に事業アークテックチャ関連科目10単位の取得を課しており段階的な取得がされる設計となっている ・ 中でもPBLの取り組みは実践的で高く評価できる
2	事業関連カリキュラムでは、実践教育を充実させるために、講義、討論、演習、PBL、インターンシップ等、適切な教育手法や授業形態を採用し、各科目と学習・教育目標との対応関係を明確に示していること。	S	根拠 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義、演習、事例研究、PBLと多岐で、ケースメソッドの導入も図るなど多様で効果的な講義形態が取られている ・ 各科目のCCSFとの関係がシラバスに明記されていることは良い
3	事業関連カリキュラムの設計に基づいて授業に関する授業計画書(シラバス)を作成し、当該専攻に関わる学生および教員に開示していること。 また、シラバスでは、科目ごとに、カリキュラム中での位置づけを明らかにしており、その教育の内容・方法、履修要件、この科目の履修により達成できる学習・教育目標、および成績の評価方法・評価基準を明示し、それに従って教育および成績評価を実施していること。 なお、成績評価にあたっては、各学生のその科目の最終的な合否・水準判定だけではなく、シラバスに記述された達成が期待される各学習・教育目標に関し、それらの個別の達成度評価にも努めていること。	S	根拠 <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスは詳細かつ明快に記述されており良い ・ 各先生の記述のレベルが合っており、教員間のコミュニケーションが図られていることが見えて良い ・ 事業アークテックチャ特別演習の評価にはルーブリック（コンピテンシースコアシート）が導入されており良い 指摘事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位の美質化との関係で、各講義回の予復習の内容などを明記する必要性については今後の課題と考える

出所など：日本技術者教育認定機構「専門職大学院認定機構「専門職大学院認定評価報告書」を編集、抜粋して作成